

令和元年第2回文化財保護審議会

日時：令和元年6月21日（金）午後4時～

場所：区立郷土資料館集会室

午後 3 時59分開会

○事務局 お忙しい中を集まっていたいただき、感謝する。

開会に先立ち、今年度着任した皆川生涯学習部長より挨拶をさし上げた
い。

○事務局 私は、この4月に生涯学習部長に着任した皆川である。よろしくお願
いする。忙しいところ、出席に感謝する。

世田谷区教育委員会は、平成28年度に策定した世田谷文化財保存活用基本
方針に基づいて具体的な取り組みを今進めている。本日報告する世田谷デジ
タルミュージアムを構築し、この4月から運用が始まっている。子どもたち
の学習への支援、未指定の文化財も含めた文化財の検索機能等の活用をして
いる。来年の東京オリンピック・パラリンピックに多くの外国の方が世田谷
区に来ると想定されているので、外国のお客様にも、世田谷の原風景である
民家園に立ち寄って、見ていただきたい。民家園を保存するだけでなく、う
まく使ってくつろげるようなスペースとして活用できないかと今いろいろと
考えている。

今年度も委員の先生方には、それぞれの立場から忌憚のない意見を頂戴し
たい。どうぞよろしくお願いする。

○事務局 事務局の人事異動があったので紹介させていただく。

(事務局職員紹介)

○事務局 3月末に石野委員が都合により世田谷区文化財保護審議会委員を辞職した
い旨の連絡があったことを報告する。当面欠員とし、今年度に行う委員改選
の際に新たな委員を検討したい。了承を願いたい。

開会に移るので、議事の進行を委員にお願いする。

○委員 令和元年第2回世田谷区文化財保護審議会を開催する。

現在まで傍聴の申し込みはないが、会議開始後、傍聴の申し出があればその

際に諮り、傍聴していただく形で取り扱う。

初めに、事務局から配付資料の確認をお願いする。

(配付資料確認)

○委員 次第2、平成31年第1回文化財保護審議会議事録承認である。既に委員には送付しているが、各委員から修正はなかったので、本議事録のとおり承認してよいか。

[承認]

○委員 異議がないので、承認の形をとらせていただく。
次第3、令和元年第2回議事録署名委員指名であるが、今回の議事録署名は早乙女委員と外池委員をお願いしてよいか。

[承認]

○委員 よろしく願います。
次第4、重要文化財大場家住宅改修工事について、事務局より説明をお願いする。

○事務局 重要文化財大場家住宅改修工事について、現在の状況等について案内する。

資料1、工程表をご覧ください。本工事は、平成30年12月、世田谷ボロ市が15日、16日に行われた後から着手している。平成31年3月までに既に仮設現場の設営、素屋根の設置、準備作業を整え、母屋と表門の茅葺きの解体作業、表門において茅葺きを終了している。4月以降は、母屋の茅葺き、補強工事を中心に実施している。現在は母屋の平葺きを中心として改修作業を進めている。12月の世田谷ボロ市の前には工事を終了し、リニューアルした住宅をご覧くださいのスケジュールで現在進めている。

工程表の後ろのA4の資料は、今までの工程の写真を参考に添付しているので、後ほどご覧いただきたい。

報告であるが、活用計画の一つとして、今年5月25日に小学校4年生以上を対象とした茅葺き見学会を実施している。当日は、小学生も含めた保護者、地域の方々に参加いただき、実際の茅葺きを見た上で、歴史文化の造詣を深めていただいた。アンケート等でも、非常に有効な見学会であったとの意見を頂戴している。

改修工事とあわせて、大場家住宅母屋及び表門保存活用計画が完成したので報告する。

本日欠席されているが、本計画策定委員として重枝委員にも参加いただいた。

この保存計画の趣旨であるが、重要文化財としての現状と課題を把握し、保存活用を円滑に図るために必要な事項や課題に対する方針を明らかにするもので、将来にわたって文化財を適切に保存しつつ、活用を図っていくガイドラインとするために検討してきた。

その検討を踏まえ、今後、かまどや水回りを整備し、大場氏文書記録や家例年中行事に記されている代官屋敷の生活、あるいは屋敷で実際に行われていた年中行事の再現等を、区教育委員会も連携しながら、検討し、活用していきたい。多くの方々に大場家住宅とこの地域を含めた歴史文化をあわせて広く伝えていきたい。

本日は、この後、3月に部会でご覧いただいているが、現在の改修工事の状況等をご覧いただきたい。都合上、午後5時に工事が終わる関係で、この説明の後、現場へ向かっていただきたい。戻った後、引き続き審議会を進めたい。よろしく願います。

○委員 今の説明について、質問はあるか。

ないようであれば、現地視察を行う。

(現地視察)

- 委員 今、見学させていただいたが、改修工事の完成が楽しみである。完成して、また見に行くのか。
- 事務局 現在、完成確認をした上で、12月上旬に先生方へ内覧の案内をする予定である。日程等が決まったら改めて周知したい。
- 委員 現地を見て、何か質問はあるか。
- 委員 左上に「3月」とある工程写真の5番目に「鼠漆喰である事が判明した。復旧に際し検討が必要である」と書いてある。これはまだ結論に至っていないのか。
- 事務局 当初、外から見たときには壁が白化しており、白い漆喰が塗ってあるように見えたが、一部壁を解体したところ、壁面の断面がネズミ色であったことがわかり、二層になって出てきた。かなり古い時期からネズミ色を使っていた。ただ、所有者は今まで白のイメージで来ているので要検討ということである。基本的には現状変更しないということでネズミ色になったが、その色の濃淡は所有者の方と検討はした。
- 委員 この際、少しでも元に戻す姿勢か。
- 事務局 そうである。ただ、どうしても環境上、風雨にさらされる場所で、また白化して、白く見えるようになってしまう可能性は十分考えられる。基本的には原状のネズミ色の漆喰で最終的には仕上げる予定になっている。
- 委員 3面とは。東面だけか。
- 事務局 大きく解体したのが東面だけなので。
- 委員 東面だけ今回多少変わるのか。全部変えるのか。
- 事務局 全面的に塗りかえ作業をする。今は白い下地を塗っている状況である。
- 委員 少し雰囲気が変わる。
- 事務局 そうであるが、もしかしたら一瞬で白化してしまう可能性もある。

○委員 転用材という言い方が多い。転用材とは由緒不明な場合に使う言い方と、この辺からとってきたとわかっているという意味がある。転用材と一括して言ってしまうているが、もう少し細かな分析はできるのか。

○事務局 今回に関しては全体の解体工事ではないので、仕口の確認等が十分できていない。墨書などの確認も全くできていない。転用とは、明らかに外から見てちぐはぐな書き込みがあったり、使われていない痕跡が散見されるということで、かなり転用材が入っているだろうと見ているが、どういう転用材か詳細までは追い切れていない。

○委員 今回は不明の感じが強い言い方か。

○事務局 そうである。次の全体解体修理に入ったときの課題として、こういうことがあったとわかりやすく記録しておく作業を今やっている。

○委員 それはきっちりとお願いする。

○委員 次第5、世田谷デジタルミュージアムの公開活用について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 世田谷デジタルミュージアムについては、昨年度審議会に報告し、前審議会では公開前だが一部をご覧いただいた。本年4月1日から公開している。現在も文化財として保存している多くの資料を追加でデータ上に載せつつ公開している状況である。

ご覧になった委員もいるかと思うが、改めて現在どのようなフォーマットで公開されているかをごらんいただきたい。

トップページで「世田谷デジタルミュージアム」と載っている。フリーワードを入れると検索ができる。以前は保存データを実験データとして入れていたが、現在はこのように各種の板碑、古文書等、保存の部分を含めてデータ化されたものを公開している。このような形で一覧となっており、クリックすると各ページに飛んで詳細の説明をしている。

基本的には、保存、収蔵している番号も含めた表記をして、内容の詳細説明の文書を最後に入れている。これをもとに資料館等に来ていただき、必要な書類を検索、資料の提示をしていただくなどの活用ができるように載せている。

関連項目ということで、各種の件名で検索できるようになっている。

これは一部、古文書である。建造物等も含めたものも公開している。

ご覧いただいたような形で公開し、各ページをクリックしていただくと、先ほどの古文書等と同様に写真、資料の内容説明が入っている。

これも複数の写真が出るようなページビューができるようになっている。

考古資料についてもかなり数多くある。文化財を含めた各資料館、民家園等で追加作業をしているが、現在も1万1000点以上の資料データを公開の形で進めている。

こちらも先ほどと同様だが、資料番号から検索できるようなページのつくり方で、最後のほうに説明文を入れて公開している。

歴史文化の部分では、学校教育等にも活用いただけるように、世田谷ゆかりの人物も含めた写真データ、記録も載せている。教育委員会事務局としては、小学校での活用も含めて、実際には総合学習、歴史学習を含めて先生方にもご覧いただきながら、活用の検討を今進めている。

トップページに戻っていただいた。文化財の資料はまだ多く、3万点近くあるので、これから追加、記録、登録をしながら進めていきたい。また、このデジタルミュージアムは、文化財の登録データの活用のほかに、下にスクロールしていただくと、さまざまな活用の媒体として、まち歩きを含めた散策マップ、歴史文化物語としてストーリーを立てていくと文化財保存活用基本方針にも載せている。そういった活用も今後載せていく。

また、昭和30年代を中心とした「世田谷区の歴史」としての写真も入れた。現在も家族で見えていただけるような、学校でも使っていただけるような昭和30年代ごろの歴史資料としての写真も活用いただくということで載せている。

「ジュニア講座」は、現在作成中である。学校活用も含め、歴史、文化理解を深めていただくために、先生方と協力しながら、現在活用に向けて調整をしている。

今年4月から世田谷デジタルミュージアムを公開し、5月末現在でのユーザー数は約2500件、トータルページビューとして約3万件である。今後、学校、地域の方、一部観光も含めて歴史文化のまち歩きを楽しむ方も非常に多いので、チラシの配布をしながら進めていきたいと思っている。

アクセスは、実際にページビューで確認すると、多言語対応のこともあり、アメリカ、インドからのアクセスもあった。アクセス数はアメリカが一番多い。今は多くが自動翻訳で多言語対応をしているが、一部翻訳文は私どもでも作成しながらアップロードしていきたいと考えている。

昨年度までは実際の画面をご覧いただけなかったが、今年度、このような形で公開活用をしている。使い勝手等については意見などをいただきながら、さまざまな活用を図っていきたい。よろしく願います。

○委員 ただいまの説明並びに映像について、何か意見は。

私もつい最近検索したが、正直なかなかよくできているという感想である。一部工事中で見られない等はないのか。何らかは見えているのか。

○事務局 現在、「ジュニア講座」は一部掲載しているが、これからどんどん追加していく。「せたがやの記憶」は、地域の区民の方々からいろいろな情報を私どもが受けるということで今作成しているので、まだ準備中としている。こちらも構想、工程がまとまり次第公開していきたい。

- 委員 たっぷりお金を使って、すばらしいものができて、うれしい。
- 主にここで保存している古文書についても1点1点目録が出てくるよう
 になっていて、とてもすばらしい。いずれ写真も載せることになるのか。
- 事務局 今後も写真も載せていく形で今調整している。
- 委員 入力のは冊子体になっている。例えば大場氏文書目録とか、森家文書
 目録等をそのまま写しているのか。
- 事務局 現在のデータか。
- 委員 現在ここに入っているデータは冊子体の目録を写しているのか。
- 事務局 はい。
- 委員 時々勘違いをすることがあるが、デジタルミュージアムで端的に写した
 としても、それが冊子体の目録のかわりになる訳ではない。むしろ、ここ
 から入って冊子体の目録に入っていくって、だんだん関心が深くなる。ぜひ
 冊子体の目録も大事にしていきたい。実は私の大学のゼミ生が昨年度
 こちらに大変世話になり、森家文書を中心にいい論文を書いたが、実は目
 録にも若干の不備があった。新しい知見とか、新しい古文書が入ってきた
 ときに、直接こちらにデータをつくるだけでなく、冊子体の目録もきちん
 とつくっていただくという段取りがあった上で、デジタルミュージアムが
 生きると思う。そちらにたっぷり予算をつけて、ぜひ冊子体の目録のほう
 にも十分費用をつけていただいて、これを機会に今までやってきた蓄積も
 盛り上がるようにしていきたい。
- 今、話にはなかったが、昔の映画にここから入れる。若いころの森安彦
 先生の御雄姿などを拝見した。あれだけきちんとしたポータルサイトはな
 かなかないと感服した。気がついたことを申し述べた。
- 事務局 ありがとうございます。
- 委員 このレベルのポータルサイトをつくっている自治体は世田谷のほかには

どこか。

○事務局 沖縄県那覇市でデジタルミュージアムをつくっている。23区でこういったレベルのものはない。

○委員 見てみたい。1つの指標になるのではないかと考えている。

○事務局 那覇市のデジタルミュージアムはかなり参考にさせていただいている。

○委員 市のホームページから入っていくとつながっていくのか。

○事務局 多分、グーグル等で那覇市デジタルミュージアムで検索すると出ると思う。

○委員 今の提言も検討しながらやっていただきたい。

○事務局 賜った意見を検討して進めたい。

○委員 ここに載った文化財は、区、都、国が指定した文化財でつくったのか。それ以外はまだ入っていないのか。

○事務局 文化財に未指定、未登録のものも実際には入れている。

○委員 なるべく幅広く入れてもらったほうが、今後の保存を考えるときにはありがたいと思う。

○事務局 今1万数千件の点数で先ほど説明したが、まだ数があるので、数年間かけて増やしていく予定である。今でも3万件ぐらいあるとの話なので、今後しばらくは追加更新の作業を私たちのほうでもしていく。

○委員 事務局でそれに専従で対応している人がいるのか。

○事務局 こちらの職員で対応している部分がある。

○事務局 専従ではないが、それぞれの業務を行いながら、実際に活用できるものの確認をしながら入力作業をしている。

○委員 さっきも出たが、祭りや行事等、さまざまな映像記録もクリックすると見られるのはいいことである。活用する意義がある。

○事務局 説明が不足しており、サポートいただき感謝する。ぜひ多くの方にクリ

ックしていただきながら、学校でも地域でも歴史に触れ合って活用いただければと思っているので、啓発活動にも取り組んでいきたい。

○委員

世田谷デジタルミュージアムはどんなものができるかと思っていたが、なかなか立派なものが出てきたのではないかというのが私の個人的な感想である。引き続き充実していただきたい。世田谷デジタルミュージアムについては、そのような公開活用が進みつつあるということである。

次第6、民俗調査の実施について、事務局から説明をお願いする。

○事務局

民俗調査については、文化財保存活用基本方針の重点取り組みにも挙げている新たな区史編さんに向けた歴史文化の調査・研究の推進、及び、今までも複数年にわたり民俗調査を実施していたが、本年度より新たな民俗調査を開始する。資料3にもあるとおり、昭和52年から62年にかけて、かつての近世村を調査単位に民俗調査を実施し、12冊の報告書を取りまとめている。この間、約30年以上経過し、世田谷区内も住宅化が進んだ。また、バブル経済、IT技術、社会環境の変化等々さまざまな変化が生じている。実際に30年経過すると、話者の方々も少なくなる中、過去の調査対象も含めて今回さまざまな視点から複数年にわたり民俗調査を行うことに決まったので報告する。

今回調査については、区内の希少な農地等の住宅への転換等も進み、人々の生活慣習も変わってきている。住宅街、商店街などへ変化してきたプロセスを重視しつつ、聞き取り調査を中心に行う。さまざまな視点から内容を整理した上で、構成要素を検討し、調査報告に取りまとめる計画である。

スケジュールであるが、令和元年度及び令和2年度は現地等の聞き取り調査を中心に行い、令和3年度は仮称「世田谷の民俗」の形で報告書を刊行する予定である。

調査体制であるが、山本質素委員を中心に調査願ひ、事務局は生涯学習・地域学校連携課文化財係が中心となり、現在進めている状況である。

○委員 山本委員、何か補足はあるか。

○委員 かつての調査報告書に載せられている資料を今回読み直してみると、重要なことが多く記述されていた。それらをもとにしながら、現在までの変化を中心に捉え直す視点を持てば、あえて今の時代の都市部の民俗は何だろうかということが少しずつ捉え直せるのではないかという気はしている。そういう視点を中心にしながら調査を進めていきたい。

○委員 これからもこの民俗調査の実施について慎重に進めていただきたい。

ほかに意見、質問はあるか。

ないようなので、引き続きよろしくお願ひしたい。

以上で議事的なものは終わったが、事務局から配付資料等について説明をお願ひする。

○事務局 まず、平成30年度報告を各係から報告したい。資料4、1枚目に平成30年度文化財係事業報告とある資料を手元に準備いただきたい。

では、文化財係より説明する。

文化財係では、昨年度、3件の文化財調査、7件の埋蔵文化財の発掘調査及び再整理調査を行った。また、普及・啓発事業として複数あるが、大きな事業として、昨年度は、明治元年、1868年から150年の年に当たり、明治150年の関連施策、各省庁、地方公共団体、民間を含めて多様な取り組みを推進した。

資料の次ページ、13番、明治に入ってからの変化を見せる世田谷の様子について、巡回パネル展「せたがやの明治」を4つのテーマで実施した。

明治150年・東京150年関連事業の講演会として、平成30年12月1日に

「司馬遼太郎がみた近代化－江戸から明治へ」と題して実施した。区立中学校で教科「日本語」の中で学んでいることから、世田谷区を中心に司馬遼太郎が近代化をどのように見てきたかをテーマとし、183名の参加をいただき、盛況のうちに講演会を無事に終了した。

せたがや歴史文化物語ワークショップは、文化財保存活用基本方針にあるが、文化財単独ではなく、文化財の周辺環境や関連の文化財を含めてストーリーをつくることで、文化財の価値をわかりやすく発信していく取り組みである。昨年度は、「世田谷の古道（大山道）」をテーマに2日間にわたりまち歩き及びワークショップを行った。本日はまだ準備していないが、講座大山道のなぞなぞブックという形で発信ツールをつくり、皆様に文化財の価値を知っていただくことを中心に、発信の作業にも努めてきた。

「デジタルミュージアムで巡る せたがやの歴史と文化」である。先ほどデジタルミュージアムの公開内容をごらんいただいたが、4月1日公開前の3月24日に、せたがや文化散策マップにも入っているルート、松陰神社から勝国寺、世田谷城址公園、豪徳寺、勝光院、代官屋敷を回った。この間、世田谷デジタルミュージアムにアクセスし、解説及び地図情報などを確認しながらまち歩きを行った。27名の参加をいただいた。

そのほかの事業もあるが、書面にて変えさせていただきたい。

○事務局

引き続き、民家園係から事業報告をする。

平成30年度は、例年通り、次大夫堀公園民家園、岡本公園民家園、両園でさまざまな事業をやってきた。「年中行事」の実施で14行事、「民間歴」の再現で28行事、「民家園教室」の開催が28教室、「民家園土曜日を楽しもう」の開催も16行事と、さまざまな事業を展開してきた。5月5日の子どもの日、7月7日土曜日に岡本民家園の七夕まつり、8月26日には

子どものための夏休み教室、11月23日には手作り市、1月1日に元日開園を行ってきた。どれも天候に恵まれたので、非常に大勢の方にお越しいただき、好評のうちに実施できた。

企画展も行った。11月1日から平成31年1月1日まで「回想・次大夫堀公園-『民家園』をつくる-」を行った。2月22日から3月24日までは収蔵資料展として「物置民具考」を開催した。

このほか、例年どおり、ボランティアの方々も非常に活発に活動していただいた。特に去年はバンバリー市長が5月に、同じくバンバリー市の小学生たちが交流のために10月に来日した際、次大夫堀公園民家園に寄っていただき、ボランティアの方たちが交流に一役買っていた。

改修工事に関しても、資料にあるとおりに行っている。

○事務局

引き続き、郷土資料館から報告する。

郷土資料館は、資料記載のとおり、座学の歴史講座を5講座、野外を歩きながら文化財を探訪する野外歴史講座を3講座開催した。野外歴史講座のうち「吉良氏の旧跡を訪ねる」は当日大雨になったので中止した。ほかに子ども向け講座として夏休み親子香道教室を実施し、比較的珍しい伝統文化ということでテレビ局等も取材に来ていただき、参加者に非常に楽しんでいただいた。

特別展・季節展については、例年の時期に開催した。特別展は「一江戸・明治の肖像画」で世田谷ゆかりの人物を中心に展示した。それぞれ多くの方々に来館いただいた。

博物館実習も7大学7名の学生を受け入れている。

その他、資料裏面にあるように、刊行物として「世田谷叢書」も出している。

○委員

平成30年度の事業報告をいただいたが、何か質問、意見はあるか。

- 委員 多分誤記だが、資料4の1ページ目の裏の14番、せたがや文化創造塾で法務省旧本館の見学は、前の年度でやっていたと。
- 事務局 そうである。平成29年度なので平成30年度ではない。申し訳ない。
- 委員 これは私が担当したのでよくわかる。
- 事務局 大変失礼した。
- 委員 では、訂正をお願いします。
- 委員 1ページ目の文化財調査の住宅緊急調査とは、具体的にはどういう調査をしたのか。
- 事務局 豪徳寺二丁目のN家は、小型の古民家であり、今まで商店に改築して住んでいるお宅の記録調査である。深沢六丁目A家住宅緊急調査は、深沢にあるA家という旧家の住宅であり、もともとは江戸期にさかのぼるものと思うが、大正期に拡張した間取りの建物の記録調査である。
- 委員 いずれも古い家の現状調査か。
- 事務局 いずれも古い住宅で、既に取り壊している。
- 委員 それでは、続いて令和元年度の事業計画について報告をお願いします。
- 事務局 資料5、令和元年度の事業計画の報告をする。
- 令和元年度文化財係事業計画から報告する。
- 文化財係では、本年度、文化財保存助成等の事業としては、齋田家住宅の現状確認調査を行う。
- 埋蔵文化財調査は、4件の調査を実施予定である。
- 啓発事業は、本日も配付しているが、今年度もせたがや文化創造塾を9月1日、9月7日、9月8日に6回にわたり実施する。稲城委員、堀内委員には講師を引き受けていただき感謝する。
- また、現在改修工事中の先ほどご覧いただいた大場家住宅の情報発信の一環として、小学校4年生以上の区民を対象とした見学会を2回実施す

る。既に5月25日に1回目を実施した。2回目は7月25日に実施し、茅の刈り込み等の見学をしていただく予定である。

引き続き、せたがや歴史文化物語ワークショップなども含めて進めていく予定である。現在、ワークショップはテーマの選定等を行い、夏以降の実施予定である。

○事務局

引き続き、資料5の次ページ、民家園系の事業計画も報告する。

今年度も「年中行事」「民間歴」「民家園教室」「土曜日を楽しもう」などのさまざまな行事を予定しており、既に始まっている。

さらに、こちらも例年どおり、企画展を予定している。「文化財活用と民家園」（仮）を令和元年11月1日から令和2年1月1日まで、収蔵資料展「仕立て繕う-くらしのなかの衣と手仕事-」（仮）を9月4日から10月6日まで、次大夫堀公園民家園の展示室で開催する。また、令和元年7月2日から令和2年3月31日まで、岡本公園民家園で企画展「岡本の記憶を辿る-ムラの名残-」（仮）を開催する。時間があればぜひ足を運んでいただきたい。よろしく願います。

○事務局

続いて、郷土資料館の事業計画である。

例年と同様に各種講座、展覧会を開催する。年度前半の歴史講座、野外歴史講座は既に終了しているが、多くの方に参加いただいている。下期についても、例年人気の美術史講座等々を予定している。準備を進めていく。

なお、特別展は、本年度は10月26日から、現在仮題となっているが「世田谷の消防」を企画している。主に明治以降の消防の歴史を取り上げて、現代の消防に至る世田谷の消防の発展を紹介していきたい。時間がとれるようであれば、ぜひごらんいただきたい。

○委員

令和元年度の事業計画について、意見、質問はあるか。

○委員 せたがや文化創造塾の平成30年度の受講者が、私の記憶からすると少し減っている。倍ぐらいあったのではないか。テーマ性にもよるであろうが、今年度もやるということで、少ない分にはやりようもあるが、そろそろ曲がり角にあるのか。

○事務局 平成29年度に比べて平成30年度は受講者数が少ないと我々も感じている。今回はテーマを世田谷に絞ったり、例えば堀内先生には「世田谷区の近代建築の見かた・調べ方」等、文化財に詳しくない方にもせたがや文化創造塾を受講してほしいと事務局でも考えている。そのようにして受講者を増やそうと考えている。

○事務局 担当から申したとおり、さまざまな視点でいろいろ今後も考えていく。ことしは特に世田谷を中心として、先生方にも協力いただき、図っていこうということもある。また、せたがや文化創造塾のあり方は、指摘のとおり、今後、専門性を追求するもの、初級クラス、足を踏み入れやすいコースから入っていただく等、先生方と相談させていただきながら、来年度に向けて講座のあり方も意見などを頂戴できればと考えている。

○委員 余り言うとも自分の首も絞めかねないが、デジタルミュージアムとの関係は今後どうするのか。例えばeラーニングみたいに記録をとるのか。デジタルミュージアムの中での位置づけも当然出てくるかもしれない。そういうところで予告するのもあるかもしれない。今回デジタルミュージアムが立ち上がったので、インフォメーションの欄も大いに利用すればいいのではないか。

○事務局 貴重な意見をいただき感謝する。ぜひその点についても、先生方の意見や立場もあるかと思うので、その活用検討もしたい。

○事務局 今の意見も踏まえ、デジタルミュージアムにはまだ載せていないが、広く周知する形はあると思う。

○委員 今は区報あたりが例年少し載っていたりする程度か。

- 事務局　　今は区報、ツイッター、チラシを図書館、小学校、中学校を中心として配付している。世田谷デジタルミュージアムにもイベント等の周知案内があるので、活用を図っている。
- 事務局　　実際の講座の需要も当然あり、デジタルの良さもあるので、どのような需要が今後出るかも検討しながら、皆様方の意見をいただきながら、検討していきたい。
- 委員　　今回とりあえずeラーニングはなしか。
- 事務局　　せたがやeカレッジというものがあり、その中でもいろいろ提供はしているが、今のところは考えていない。
- 委員　　リピーターは必ずいるが、新規開拓で興味を持ってもらえる形で、受講者が減っているところは何か考えなければならない。前は1回五、六十人いた気がする。もったいない。
- 事務局　　デジタルミュージアムの中での周知も非常に大きなことだと思うので、検討していきたい。
- 委員　　例年委員の先生方にもいろいろ講演を依頼しているが、引き続き積極的にこの講座にかかわっていただきたい。講演してくれる先生がいなければ困る。去年と同じ人だとマンネリ化する傾向がある。今度の堀内先生はたくさん人が来ると思う。
- 委員　　半分話題にしたいはなかったが。
- 事務局　　よろしく願います。
- 事務局　　今後いろいろと検討もする。
- 委員　　立派なカラー刷りの案内を出しているが、そこら中に配布しているのか。
- 事務局　　学校や各区民センター等にも配布している。
- 委員　　学校は多分余り来ない。
- 事務局　　地域の図書館も含めて広く区民の目に触れるような場所、パソコンやスマ

ホでも検索、ヒットできるように。

○委員 デジタルミュージアムでも宣伝すると。

○事務局 はい。進めていきたいと思っている。

○委員 ぜひ盛会であることを期待している。よろしくお願いします。

○委員 創造塾の出席者にはリピーター、関心がある人が多いと思うので、そういう人から、こちらから講師を選んでテーマを決めるのではなくて、例えばこういうテーマでやってほしい等のアンケートはとっているのか。

○事務局 アンケートは昨年度もとって好評はいただいているが、受講者にどのような講座を希望するかということは聞いていなかったなので、今年度のアンケートは検討したい。

○事務局 実は今年、会に先立ち少し時間をいただき、事務局からデジタルミュージアムの活用と歴史文化についても報告や案内をしたいと考えている。ことしはいろいろな方面から意見をいただけるように準備したいと考えている。

○委員 受講者にどういうニーズがあるのか、それぞれの講演の感想もいいと思うが、今後のあり方を考えていく上で、ずっと続けていくならばそれなりの工夫が必要だと思う。よろしくお願いします。

野毛大塚古墳のリーフレットについてはいいのか。

○事務局 野毛大塚古墳については、国からの指定を受けて、パンフレットを昨年度新しく作成した。報告を含めて今回はリーフレットを入れた。

○委員 野毛の埴輪はどうなっているのか。この写真と現状は違うように思うが。

○事務局 現在、埴輪はいろいろいたずら等で割れてしまった部分がある。

○事務局 かなり割られてしまい、ファインセラミックでつくっていたので、とがっていて危ないとの声があった。安全管理上の問題もあり、2年前に一旦全部撤去している。東京都指定史跡でもあるので、これにかわり、何かしらの活用を考えていきたい。

- 委員 この写真を見て、期待して行く人は少しがっかりするかと思う。
- 事務局 実は野毛大塚古墳の隣に玉川野毛町公園拡張用地がある。このたび公園サイドとも調整しており、今後の整備も含めて野毛大塚古墳の見せ方、資料展示の仕方等々を今検討している。そのものずばりを案内することは難しいかと思うが、貴重な資料がここにあることをいろいろ啓発していければと考えている。
- 委員 野毛古墳まつりは結構集まっているのか。
- 事務局 現在、毎年秋に実施しており、地域の方々を中心に来ていただいている。
- 事務局 参加者は800名ぐらいである。
- 委員 やったのは1日か。
- 事務局 1日である。地域の方を中心にと申したが、古墳に興味のある方は遠方からもいらしていると聞いている。
- 委員 昭和女子大学も協力しているので、ぜひよろしく願います。
- 委員 今年度の事業計画に載っていなかったが、去年かその前からか、指定文化財で天然記念物、名勝を少し考えていこうということが議題となったが、ある程度進んでいるのか。その計画はあるのか。
- 事務局 この件については、議会からも、名勝、史跡、天然記念物についても文化財としての登録を検討するといった体制ができているのかとあった。私たちとしても、あるなしにかかわらず、実際に検討体制を整えていこうと、現在、ワーキンググループも含めて庁内調整の上進んでいる。天然記念物も含めて指定するようなものがあるかどうか、調査体制を昨年度末から整えている。何らかの形でまた皆様に報告できればと思っている。
- 委員 一応継続で、去年切ってしまったわけではないのか。
- 事務局 継続して考えている。
- 委員 全体で何か意見、質問はあるか。

なければ、これで令和元年第2回文化財保護審議会を閉会する。

午後5時31分閉会